2023年10月発行

相模原市総合写真祭

フォトシティさがみはら TOPICS vol.4

DOCUMENT! 記録！
EXPRESS! 表現！
MEMORY! 記憶！

相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会
事務局：相模原市文化振興課 TEL 042-769-8202

「先生と呼ばれるような人間じゃない」と言われて
微笑まれたお顔がチャーミングだったので
敬意をこめて〝さん〟付けでご紹介させていただきました。

江成常夫（えなり つねお）さんって、どんな写真家？

フォトシティさがみはらの思想性をささえ 時代の表現者となった相模原市民

▲友人たちと高校生時代
前列の右側が江成さん

中央区田名出身の江成さん。2.26事件の起きた 1936 年に農家の三男として誕生。本家の養子となって、ここ相模原の地で、昭和そのものを生き抜いてこられました。
通いやすいからと進学した東京経済大学を卒業、厳しい選抜をくぐりぬけ毎日新聞に入社。カメラマンとして社旗翻る車に乗って60年代の政治の季節から相次ぐ航空機墜落事故、3億円事件、安田講堂の陥落、沖縄復帰、大阪万博と時代の現場を目撃することになります。

海を渡った花嫁たちと出会う

しかし、江成さんはその恵まれた境遇に飽き足らず、いさぎよく新聞社を退社してしまいます。蓄えも目論見もなく組織を飛び出した外界は〝吹雪のよう〟だったといいます。家族と離れ単身ニューヨークに飛び立つ前、羽田で撮られたスナップ※右写真には、送り出す者の笑顔に飛び立つ者の決意が伺えます。
それは〝自分の眼差しで〟この国と時代を刻む「戦争花嫁」と呼ばれる人たちとの出会いを呼び、6万人とも10万人とも数えられる花嫁たちとその家族の姿を記録する写真集になりました。石もて追われるように海を渡った彼女たちは国による手当を一切受けず、郷愁を胸に異国で生き抜き、受け入れたアメリカでは、2世や3世の活躍を耳にすることは頻繁です。

▲羽田にて家族と。1974年
下は『花嫁のアメリカ』から

大地に残されたこどもたちと出会う

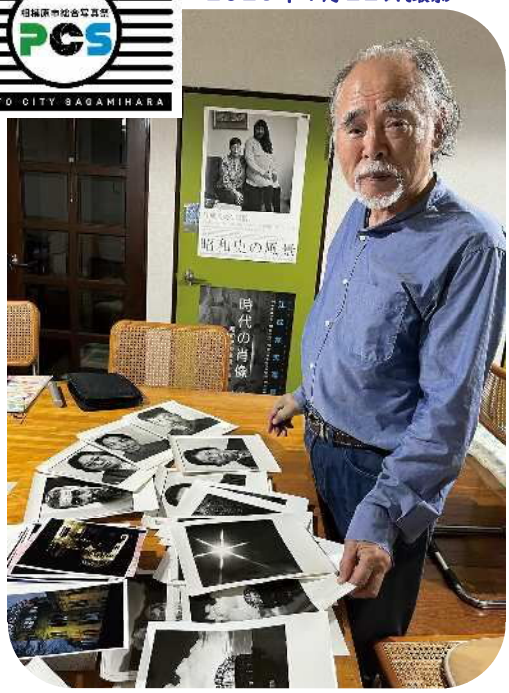
▲瀋陽（旧満州）にて日本人孤児の家族と一緒に江成さん。1981年
下は『シャオハイの満州』より

国に顧みられることのなかった人々への眼差しは、引き続き「中国残留孤児」に向けられます。こどもを捨てた国と敵国のこどもを育てた国と。
江成さんの写真には、国とは何か、人間とは何か、幸福とは何か、という問いが詰まっています。※今回は初期の江成さんの写真をご紹介。今後、みなさんに少しずつ紹介予定です。

写真家はこの目で確かめないと仕事にならない

――そして 江成さんは国家と時代を問う日本を代表する写真家となった

2023年9月22日撮影



▶ご自宅アトリエにて江成さん

江成さんが相模原市に寄贈した写真作品は2000点超

No.	作品名	寄贈点数	展示歴	デジタル化
1	百肖像(時代の肖像)	145点	2002 市立博物館 2018 光と緑の美術館	済
2	ニューヨークの百家族	136点	2004 市民ギャラリー	未
3	ニューヨーク日記	125点	2017 光と緑の美術館	済
4	花嫁のアメリカ	144点	2019 市民ギャラリー	済
5	山河風光―相模川の四季	148点	2004 女子美術大学	未
6	まぼろしの国・満州	131点	1997 市立博物館	未
7	シャオハイの満州	159点	2015 市民ギャラリー	未
8	ヒロシマ万象	120点	2011 市立博物館	未
9	偽 満州国	46点	2008 市民ギャラリー	未
10	鬼哭の島	69点		未
11	花嫁のアメリカ 歳月の風景	150点	2019 市民ギャラリー	済
12	昭和史のかたち(偽満州国・鬼哭の島等)	104点	2012 市民ギャラリー	未
13	昭和・家族の肖像 1976～1978	70点	2015 市民ギャラリー	未
14	生と死の時	160点	2017 市民ギャラリー	済
15	After the TSUNAMI―東日本大震災	150点	2018 市民ギャラリー	済
16	多摩川 1970－74	100点	未実施	未
17	被爆＝ヒロシマ・ナガサキ	120点	2022 市民ギャラリー	済
江成さんによる寄贈写真(大型含む)		全2077点	R5.9.30現在	

いい写真は繰り返し見て読み解きたいもの。
江成さんの写真作品は昭和という時代を表現する市民の財産です。展示の機会が限られて眠ってるなんて、もったいないと思えてなりません…。